

内容と解説

EXERCISES I

Student Book 16ページのイラストを使って練習

1. ex. ノート ①ほん ②とけい ③しんぶん ④かぎ ⑤かばん ⑥つくえ ⑦いす ⑧くるま
- ◆身のまわりにある物の名前を覚えます。語彙は、できるだけ実物を用いて導入します。(車はミニカーが写真で。)
2. ex. これは ノートです。 ①ほん ②とけい ③しんぶん ④かぎ ⑤かばん ⑥つくえ ⑦いす ⑧くるま
- ◆手元(手近)にある物を示す「これ」を導入し(イラストでは指差しマークを用いています)、「これは Nです」の文を練習します。
- ◆「これ」の練習では、常に物を話し手の手元に置くように留意します。教師が生徒といっしょに発話したり、生徒にリピートさせたりするときは、必ず生徒のとなり立ち、手元の物を指しながら「これは～です」と言います。生徒の間で実物を回して、自分の手元に回ってきたら、「これは～です」と言いながら、同時に語彙の定着を図ります。
3. ex. A: これは ノートですか。 B: はい、ノートです。
①ほん ②とけい ③しんぶん ④かぎ ⑤かばん ⑥つくえ ⑦いす ⑧くるま
- ◆手元にある物について、QAをしながら、覚えた単語を確認します。
4. ex. A: これは ほんですか。 B: いいえ、ほんではありません。
A: なんですか。 B: ノートです。
①ノート、ほん ②しんぶん、かぎ ③くるま、しんぶん ④かぎ、かばん
⑤かばん、ほん ⑥いす、つくえ ⑦つくえ、いす ⑧とけい、くるま
- ◆引き続き手元にある物についてQAで覚えた単語を確認しながら、疑問詞疑問文を導入します。
- ◆テキストの練習に入る前に、実物を袋に入れて外から触らせたり、シルエットだけを見せたり、実物の入った箱を振って音だけを聞かせたりして、「なんですか」とたずねます。
- ◆1. で覚えた単語は限られていますが、一見すると何だかわからないようなもの、たとえば、本の形をしたかばん、時計の形をしたキーホルダーなどがもしあれば、楽しくインフォメーションギャップを作って、S:「これは とけいですか」T:「いいえ、とけいではありません」S:「なんですか」T:「かぎです」のようなやり取りを導きます。
- ⇒ 楽しく学べるアイデア集 L2 【1】「なんですか」ゲーム
- ⇒ 日本と世界の文化・情報 L2 【1】日本の文字／縦書きと横書き

EXERCISES II

Student Book 17~18ページのイラストを使って練習

1. ex. これは パードくんの ノートです。

- ①たなかせんせいの ほん ②かとうくんの とけい ③やまもとくんの しんぶん
④おとうさんの かばん ⑤きむらさんの かぎ

- ◆所有を表す助詞「の」の学習です。持ち主の顔のイラストを見ながら、「(持ち主)のN」の言い方を導入します。
- ◆語順の誤り(「ノートの パードくん」「ほんの たなかせんせい」)が出やすいので、よく練習します。
- ◆教師は自分の持ち物を提示して、「私の～です」と言います。また、生徒数人の持ち物(同じ物、例えば本なら本)を手に取り、「Aさんの ほんです。」「Bさんの ほんです。」「Cくんの ほんです。」と言います。いくつかの物について、同様に行います。(ノートなど名前が書かれた物で、名前を指しながら言えばよりはっきりします。)

2. ex. これは がっこうの つくえです。 ①がっこうの いす ②がっこうの くるま

- ◆学校の物についても、1. と同様に練習します。

3. ex. A: だれの ノートですか。 B: おとうさんのです。

- ①ほん、やまもとくん ②とけい、パードくん ③しんぶん、たなかせんせい
④かぎ、かとうくん ⑤かばん、きむらさん ⑥くるま、がっこう

- ◆疑問詞「だれ」を「だれの」の形で導入します。持ち主をたずねたり答えたりする練習をします。答えでは、「パードくんのとけいです」の「とけい」を省略した「パードくんです」の形を練習します。
- ◆テキストでは、あみだくじを使っています。これは日本の子どもたちがよく使うものですが、詳しいやり方はL12のJAPAN NEWSにあります。疑問詞を使った練習では、インフォメーションギャップをつくるのが効果的ですが、あみだくじはそのひとつの手法です。
- ◆生徒たちの持ち物を集めて「だれの～ですか」と聞きます。本人が「わたしの～です」「ぼくの～です」と言えなければ返しません。実際の忘れ物や落とし物、宿題などの返却物もよい素材となります。生徒も返すのを手伝いながら、QA 練習ができます。

⇒ [楽しく学べるアイディア集L2【3】だれの手](#)

EXERCISES III

Student Book 18ページのイラストを使って練習

1. ex. がっこう ①かいしゃ ②かとうくんの うち ③やまもとくんの うち ④きむらさんの うち

- ◆練習に必要な場所の語彙を覚えます。

2. ex. がっこうの でんわばんごうは 3785の2411です。

- ①かいしゃ、5460の6933 ②かとうくんの うち、3612の8724
③やまもとくんの うち、3550の9245 ④きむらさんの うち、5962の0087

◆準備段階として、電話番号の言い方を練習してから、「～の でんわばんごうは ○○○○の ○○○○です」の形で、電話番号を教える言い方を練習します。「かとうくんの うちの でんわばんごう」のようにだんだん構文が長くなり、語順の乱れや、助詞の抜け落ちも多くなってきます。イラストは、語順のとおり組み立てられているので、順に指し示して、発話を助けてください。

3. ex. A : がっこうの でんわばんごうは なんばんですか。 B : 3785の 2411です。

①かいしゃ、5460の6933 ②かとうくんの うち、3612の8724

③やまとくんの うち、3550の9245 ④きむらさんの うち、5962の0087

◆電話番号をたずねたり、答えたりする練習です。新しく「なんばん」という疑問詞を学びます。まず、電話番号だけの板書か、フラッシュカードを見せて、「なんばんですか」「3785の2411です」の簡単なQA練習を行い、言えるようになってきたら、場所を特定して、「がっこうの でんわばんごうは なんばんですか」「3785の2411です」のQAに進みます。

⇒ [楽しく学べるアイディア集 L2【4】ピザ屋はなんばん](#)

MAIN DIALOGUE

会話本文は Student Book 20ページ / 21ページのイラストを使って練習

- ◆バード君が日本語で書かれたメモについて、田中先生に内容をたずねる場面です。
- ◆物を受け渡すときの「どうぞ」「ありがとうございます」の表現を学びます。
- ◆「これは?」は「これは なんですか」の質問が省略された言い方です。文末が rising intonation になることに留意します。

SHORT DIALOGUES

会話本文は Student Book 21ページ

- ◆テキストのモデル会話を聞かせたり、読ませたりして、内容を確認した後、役割を決めて、発話練習をします。
- 1. 「ちょっと まってください」という表現を紹介し、よく口慣らしをします。
- 2. ◆はじめて informal speech の会話を導入します。JYP シリーズでは、中高生の年代に合わせて、このように早くから informal speech を紹介する方針をとっていますが、この段階では、友達同士だと話し方が変わるという日本語の習慣を知り、会話の内容が聞いて理解できればよしとします。(⇒文法的学習は、Vol.III)
 - * 普通体での会話のなかでは、助詞「は」を省略することが多いのですが、JYP シリーズでは、日本語初級の基礎的構文力を築くことを大切に考えて、省略しない方針をとっています。
- ◆人物をバード君と先生にし（顔の絵カードを見せる）、「これは なんですか」「そろばんです」「かとうくんのですか」「はい、わたしのです」という formal speech を聞かせ、次いで相手を加藤君の顔のカードに変えて、informal speech に変換して聞かせる方法があります。

⇒ [日本と世界の文化・情報 L2【2】友達同士の話し方](#)

NUMBERS (11 to 20)

Student Book 19ページ

- 14、17、19には二通りの言い方があることを紹介します。
- * 12と20は間違えやすいので組み合わせで出して読ませ、違いを意識させます。

⇒ [楽しく学べるアイディア集 L2【5】カウントゲーム](#)

JAPAN NEWS

英文によるコラムは Student Book 22ページ

そろばんを紹介しています。

⇒ [日本と世界の文化・情報 L2 【3】 そろばん](#)

TASK 1

詳細は Student Book 23ページ

- ◆5人の電話番号を聞いて、シートに書き込むタスクです。男子なら「くん」、女子なら「さん」に○をつけます。この段階ではまだ、かな（特に名前はかたかなのケースが多い）が書けない場合が多いので、名前は英文字でもよいことにします。
- ◆開始前に、モデル会話を練習させます。「すみません、もういちどおねがいします。」「・・・・・・・・ですね」「はい、そうです」「ありがとうございます」の表現をよく練習し、積極的に使わせるようにします。
- ◆最後に、生徒がシートを見て、「～くん／さんの電話番号は・・・・・・・・です」の文型で読み上げ、先生や他の生徒が聞き取って、黒板に番号を書きとめ、本人に合っているかどうか確認します。
- ◆この課の TASK 1 は、EXERCISES III に続けて行ってもよいものです。

QUIZ

Student Book 24～26ページ

読み書きにより言語学習項目の知識を確認します。宿題や小テストにして、フィードバックします。